



いっぽんぎ

今日が楽しく

明日が待ち遠しくなる学校

- かんがえる子 (知)
- おもいやりのある子 (徳)
- たくましい子 (体)

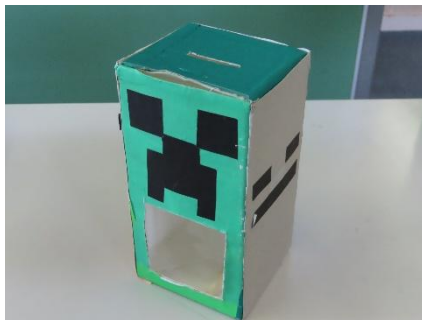
滝沢市立一本木小学校
令和7年 8月28日
第10号 文責：亀 丸

夏休み作品展会

2階ねまり場で夏休み作品展会が開かれました。身近な材料を用いた工作、面白い視点での自由研究と、力作ぞろいでした。作品展会に来てくださった保護者の皆様大変ありがとうございました。

1学期学習したことを生かしたり発展させたりした作品、完成まで多くの時間を費やしたと思われるような緻密な作品、興味のあることについて探究し知識を広めている研究、仕事をすることの苦労を体感しながら学びを深めるような研究がありました。低学年では一人では難しいところなど親子で制作したのではないのでしょうか。家族と一緒に作って楽しかったと感想をもつ子どもも多くいました。保護者の皆様のご指導・ご支援に感謝いたします。

たくさん紹介したいのですが、紙面の関係でいくつかの素晴らしい作品を紹介します。



1年 松村 絢都

ちょきんばこ

お父さんとアイデアを出し合
って作った素敵な貯金箱。



2年 廣田 那心

スイミーのゲーム

国語で学習した「スイミー」の
世界観を身近な材料で表現。



3年 田村 日々軌

さめのけんきゅう

大好きなサメをアクアワールド大洗
で観察。その生態をまとめた一冊。



4年 千葉 陽

「えんぴつ彫刻」

鉛筆の芯にローマ字を彫刻。器
用さ、根気強さに脱帽。



5年 井上 夏樹

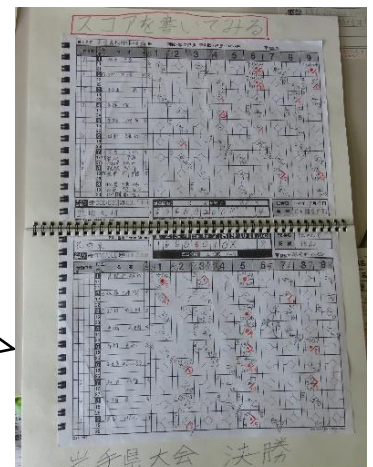
「きゅうりのミニ農家になってみた」

お小遣いで苗を買い、育て、収穫物は家の人に
買ってもらう。農業の苦労を学ぶ研究。

6年 玉城 カナエ

「スコアを書いてみた」

大好きな野球、スコアを書くことで試合を
深く分析し、さらに野球が好きになる。



であい授業を実施しました

8月22日（金）に、4・5・6年生を対象にであい授業「けんちゃんと素敵な仲間たち」を実施しました。この授業は重度心身障がい児のけんちゃんが、地元の小学校の子ども達と6年間続けた交流を知ることを通して、「命」と「共生」について考えるものです。講師は笹川健太郎さん（けんちゃん）とお父様の笹川修一さんとお母様の笹川順子さんです。健太郎さん（けんちゃん）は令和5年に亡くなられています。子ども達は健太郎さん（けんちゃん）の幼少期や、地元の小学校の子ども達との交流の様子を写真やビデオで見ながら、お母様の順子さんのお話を聞き、一生懸命生きることや、障がいのある方と障がいのない方が互いに支え合って生活していくということについて考えを深めていました。健太郎さん（けんちゃん）のお母様の話を真剣な表情で聞く子ども達が印象的でした。

今回の授業が「共生社会の実現」に向けて自分達の考えをもつきっかけになればと期待しています。



キャップハンディ体験を実施しました

8月22日（金）のであい授業に続き、8月27日（水）には様々な体験を通して障がいのある方々への理解を深め、共生社会実現のために自分達ができることを考える機会にすることをねらいとして、キャップハンディ体験学習を実施しました。

6年生は、松実会地域包括センターの方々と担任の小渡教諭による劇を通して、認知症について学びました。曾祖父母や祖父母が認知症を患っていると話す子もいました。認知症の方の心に寄り添って接し方や声がけなどを工夫することで、互いに寄り添いながら生活できることを学びました。

5年生は滝沢市社会福祉協議会の方のご指導のもと白杖体験を行いました。白杖から伝わる情報を頼りに歩くことがどれだけ難しいことかを体験的に理解することができました。

4年生は点字サークルステップの方から点字について教えていただきました。点字の仕組みを学習した後、実際に点字器を使って自分の名前を点字に打つ体験をしました。



真剣に点字の打ち方を学ぶ4年生。話しの聴き方を褒めていただきました。

白杖を使って歩くことも難しいのですが、介助も難しいことを学びました。

名（迷）演技の小渡教諭。接し方を工夫するだけで症状の進行を遅らせることができるそうです。